

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体が医療機関であり、立ち上げ当初から地域に密着したサービスを提供していた。理念の「ふれあい、対話、やさしさ」は地域の人々をも視野に入れて作り上げたものである。	○	開所時に作られた理念を基に日々地域での活動(買物・散歩・行事活動)を通してその人らしい暮らしが出来るようさらに支援していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時には、職員全員が理念を唱和し、また、カンファレンス時にも、理念について再確認する機会を設けている。	○	今後もカンファレンスある度、理念に立ち返り考える機会を作り、また新入社員にも、徹底していきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ自治会や老人会、家族への働きかけは行っている。	○	今後も継続して働きかけていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	お祭り等の行事の際には、チラシを配る等して、ホームに来て頂くよう努めている。	○	今後も地域の方々により身近に感じて頂けるよう、イベント等を通してホームを開放する機会を多く作りたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・老人会の活動があまり見られない為、こちらから参加を求めても行事等が少なく困難がある。昨年は小学校の運動会に数名が参加した程度である。	○	地域の行事が少ないのであれば、ホームに来て頂く機会を多く作り交流を試みたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>近隣にすむ一人暮らしの高齢者の方の様子を伺う為訪問したり、昼食に誘う等試みている。</p>	○	<p>地域で認知症の人を持つ家族等を対象に介護講習等を実施したり、地域の高齢者が集まれるスペースを確保し、気軽に立ち寄れる場所を提供したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価。外部評価の結果は全職員に周知させ、改善すべき箇所は意識して取り組むよう努めている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議の際は、サービスや行事等の状況報告を行い、意見・指導を頂き改善に努めている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>実地指導による助言等を受け、より良いサービスを目指し、担当者と打ち合わせ等実施し改善に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は研修等で学ぶ機会を持っているが職員には周知できていない。</p>	○	<p>今後、職場内研修において職員が学ぶ機会を設けたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者は研修等で学び、常に虐待、拘束について充分注意しケアにあたっている。</p>	○	<p>今後、職場内研修において職員が学ぶ機会を設けたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書と口頭により、十分な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、利用者からの不満を職員が傾聴し、管理者へ運営に反映させるよう心掛けているが、外部者へは知らせる機会を設けていない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度広報紙「さくらだより」をご家族に送付するほか、特変時や来所持には、近況報告し、金銭管理は個人の出納帳を作成し、月に1度確認して頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情相談窓口として、ホーム長・市・国保連の連絡先を伝えている。また、苦情があった時は、速やかに対応し、家族全員に書面で通知し、ご理解を得ている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の全体カンファレンスには、運営者や管理者も必ず参加し、職員の意見を聞く機会を設け、それを反映させるよう心掛けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況によって、職員と話し合い勤務変更を実施し対応している。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームは3ユニットあるが、3ユニットを1つのホームとして考えており、全ての職員に全利用者を知ってもらえるように異動をしているが、1度に大勢の職員を異動するのではなく、2名程度の異動で環境の大きな変化をさせないように配慮している。離職についても環境を考慮している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は積極的に行っている。また、職場内においても年間計画をたて、計画的に実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が県指導者である為、指導者同士の会議等定期的に参加し、認知症介護の向上を心掛けている。	○	他事業所で実施する行事等に参加して交流していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者とは、毎日連絡をとり、悩みや相談が出来る体制をとっているが、職員とはあまり機会がない。	○	親睦会等を定期的の実施して、会話をする機会を増やしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年の個人目標や年2回の自己評価・他者評価を通して、面接を実施し、やる気を起こさせるような働きかけをしたり、給与のアップ等考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	無理強いせず、まずは、ホームの環境に慣れて頂く事に重点を置き、不安を取り除く配慮をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人や家族の置かれている状況、不安や心配事を十分時間を掛けて聴く機会を設け、納得のいくまで相談にのっている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	すぐに入所を勧めるのではなく、まず、状況を把握し、本人・家族にとって何が一番必要かを判断し対応している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	慣れる為にデイサービスからの利用を勧めたり、日帰りで体験して頂き徐々に慣れて頂けるよう考慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な場面（買物・調理・掃除・趣味）を作り教えて頂く関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来所時はお茶をお出しし、利用者の近況等を伝え、行事には一緒に参加して頂き、協力を得られる事については、お願いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事への参加呼びかけを行い触れ合う機会が増えるよう努めている。また、家族とのふれあいが本人にとって大きな喜びである事を家族に伝え、それが家族の喜びとなるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず、友人知人への面会も受け入れており、また、家族の方の協力も得ながら馴染みの場所との関係を保っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂の席の工夫や、外出・レクリエーション時のお誘い、掃除の工夫等で相互に関われる機会を設けているが、認知症の進行の差により孤立している利用者もいる。	○	日々の生活の中で、無理なく利用者同士が関わる機会を探したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も悩みや相談があればいつでも応じる事を伝え、また、退所後も電話等で近況を伺っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式（D-4出来る事出来ない事シート）で一人ひとりの生きがいを考え実行している。できる日とそうでない日がある。	○	今後も継続し、一人ひとりの生きがいを追求したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントからの情報把握、利用者の声に耳を傾けケアのヒントにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日勤帯での利用者担当を決め、より細やかな把握ができるように努めている。また、職員間の情報交換を密にする事を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員同士の話し合いはあるが、本人や家族との場は持っていない。ただ、普段の生活の中から知り得た要望等を取り入れるようにしている。	○	話し合いの場を持つよう努力する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の現状に応じた介護計画書を作成している。急激な変化には、要介護変更申請と共に、計画の見直しも行っている。しかし、迅速な対応ができていない。	○	利用者の変化に応じ迅速な計画書の作成を心掛けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づいて記録をする事としている。 (まだ、徹底されていない)	○	職員が常にチームケアを意識して仕事ができるよう、情報の共有や記録について力を入れたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所前のデイサービスを勧めることもある。また、外出・外泊にも柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の消防訓練では、消防署の方に来て頂いて訓練している。また、定期的に歌やダンスのボランティアがある。	○	1階フロアを開放して利用者の作品展示等できればよいと思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者が他施設、サービスを望む場合、知りうる情報を本人家族に伝え、必要に応じて他ケアマネ等と連絡をとっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時の意見交換を行っている。(現在は会議時のみ)	○	運営推進会議時のみではなく、密接な繋がりを持ち、情報交換をしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人家族の意向でかかりつけ医を選択している。また、他科受診の際は、家族と相談し受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	現在、入所者全員がさくらがおかクリニックをかかりつけ医とりており、定時受診以外でも認知症に関係する特変があった時は、連絡相談を行い支援を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1週間に1度、看護師が来所し、健康チェックがあり、利用者との関係も良好である。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時サマリー提供は迅速に行っている。また、入院後も病院側と家族との連絡を密にし、本人にも面会する事で状態把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時にターミナルケアについての説明をして、意向を確認している。また、意志の変更が生じた場合はいつでも変えられる事になっている。確認書は各フロアにあり職員がいつでも確認できる事になっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医と相談しながら「出来る事出来ない事」の見極めを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入所時にはアセスメントを行い、本人の状態を見極めて無理のない移住を心掛けている。(デイ利用の段階策)また、他施設へ移る際、先方と十分な連絡をとり、負担を減らすよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いは職員一人ひとりが注意している。また、排泄や入浴時のケアにも、周りに気が付かないようさりげない支援を行っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	無理な声掛けや強制的な声掛けを避け、本人の意思を尊重した生活を送って頂けるよう心掛けている。また、理解力が落ちて選択の工夫等により希望が叶えられるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の声を聞きながら、臨機応変な生活を心掛けてはいるが、時々職員のペースで動いてしまう事もある。	○	もう少し余裕をもってケアにあたりたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類、化粧等のおしゃれについて、積極的に支援出来ている。本人の望むスタイルが出来るよう支援している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を少しの時間でも行って頂く事で達成感を持ってもらい、それが食の楽しみへと繋がるよう支援している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌の習慣のあった利用者には、その人の好むお酒を用意し、菓子の好きな人には一緒に買物に行き好きな物を購入し提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを知り、トイレ誘導を行い、リズムを作ることで、出来るだけリハビリパンツやオムツ、失禁が減るように努力している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理な声掛けはせず、本人の希望する日・時間で入浴してもらえよう心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転に注意しながら、各個人が休んだり、適切な睡眠時間が取れるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各個人の楽しみや役割を把握し、(センター方式C-1-2私の姿と気持ちシートや日常の会話の中から)一人ひとりが充実した生活を送れるよう取組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが希望者にはお金の所持や自らのお金での買物が出来るよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買物や計画を立てての外出等、戸外に出る機会を設けている。	○	現在は、自動車が出掛ける事が多いので、近所で散歩がてら行ける顔なじみの場所を作れたら良いと思う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	フロア全体での遠出や外出は実施しているが、個別あるいは他の利用者や家族との外出は支援できていない。	○	希望に添って個別の援助を考えていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には手紙や電話の援助は行なっている。手紙はなるべく自分で頂ける様援助している。	○	季節や、盆・正月の挨拶等、定期的到手紙を書く機会を設けるのも試してみたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室や堀コタツ付きの和室を提供している。また、職員も湯茶の提供を心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や服薬に於ける拘束をしないケアを実践している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵を掛けず戸には気にならない程度の音のする鈴を付け、人の出入りを確認するようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	現在、日勤帯は担当制となっており、各職員が担当の利用者の所在・状況把握に努めている。夜間帯も、行動障害のある方のトイレ見守りは、本人のプライバシーに配慮し、さりげなく行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	化粧品や食料品等、本人の希望に応じて所有している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	「ヒヤリ・ハット」作成し、危険事項は、すぐ各フロアにも伝達し注意を促す事で事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署による、普通救命講習を行っている。本年も6月に講習を受講する予定である。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練と年1回脱出袋を使つての避難訓練を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	生活全般において、リスクとなるものがあつた場合、家族にその対応も含めて伝えている。また、認知症や体力の低下があり、今後も進む可能性がある場合、予想されるリスクと対応について話す機会を設けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色・声・動き等利用者への細やかな様子観察を心掛けており、特変時の速やかな報告、受診等に繋げている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、誤薬の無いよう十分な注意をしている。また、一人ひとりの服薬目的や副作用についても理解に努めているが全員が熟知しているとはいえない。	○	Dr. や看護師に話を聴いたり、説明書に書かれている事柄をじっくり読んで理解する事。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日2回の運動(10時15時)を行い、バランスのとれた食事を提供してはいる。便の確認の出来ない人は定時受診の際、主治医と相談し、下剤を処方して頂く事もある。	○	便秘のひどい方には、繊維質の豊富な食物を提供したり、水分チェックを行って排便を促したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は行えていない。現在は、朝夕食後に実施。口腔洗浄剤やポリドントを補助的に使用し、清潔を保っている。	○	食後の声掛けに必要あり。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の好みに合わせた食事形態で提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルがあり、カンファレンス時にも話し合っている。	○	年に数回は勉強会を行いたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁、まな板の漂白や、調理の際の石鹼による手洗いの徹底、賞味期限の注意、よく日を通しての調理など実践している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口には、塀や壁を作らず、開放的にしている。「家」という雰囲気を壊さぬよう、看板は小さく設計し、周囲に溶け込み易い外壁色を使用している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は特に音が大きくなり易い為、注意している。また、職員の歩くスピードにも注意している。玄関には、季節に合った花や置物を置くよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には、畳みコーナーが3箇所あり、人目に付かないスペースも確保できており、利用者同士が話している姿がみられる。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の使い易いものを持ってきて頂くようにしており、利用者の身体・精神レベルに応じて混乱しないよう、また、転倒等の危険が無いよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓は定期的にあけ、室温は夏は28℃、冬は25℃に設定している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立ち上がり場所の手摺りの設置により、安全を確保し、トイレ、浴槽は家庭と同じ形態にする事で、身体機能を活かして利用できるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの能力の見極めを行い、出来る事への声掛けを心掛けている。やってあげるケアではなく、見守りケアの実践。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階や屋上での野菜作りや、庭の手入れ、ベランダでのプランター栽培を行っている。	○	ベランダにプランターを増やし今以上に花を植えたたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームでは、平成19年9月より、くもん学習療法を取り入れ、全体の約6割の利用者が実施し成果を上げている。また、日常の介護現場での取り組みを研究し、全国認知症グループホーム大会等に発表し、職員の介護力アップに役立てている。